

Ⅱ 課題と対応策

先に示しました「計画の目指す姿」を実現するため、この計画期間内に対応すべき課題について、まず、高齢者の状態像を3つ（元気高齢者、要支援高齢者、要介護高齢者）に区分した上で、課題を有する主体（高齢者本人、家族、地域（市町村）、事業者・従事者）ごとに抽出しました。

平成12（2000）年に創設された介護保険制度は、社会全体で高齢者介護を支える仕組みとして広く定着してきましたが、ここで抽出した課題には、介護保険制度の創設当時、あるいはそれ以前から抱える課題とともに、第3期の計画策定以降に社会状況の変化等で生じた新しい課題もあります。

これらの課題は、高齢者本人や関係者から寄せられた声を踏まえて、計画期間内に対応すべき、優先順位の高いものとして抽出したものです。

これらの課題の解決に向けて、この計画では次の8つの対応策を設定することとしました。

<対応策>

- ① 高齢者の健康づくりと社会参加の支援
- ② 要支援・要介護状態の重度化予防
- ③ 孤立化した（引きこもり）高齢者の見守りネットワークの構築
- ④ 地域全体で認知症高齢者とその家族を支援する体制の整備
- ⑤ 必要なサービスが速やかに利用できる基盤の整備
- ⑥ 介護サービスの質の確保と向上
- ⑦ 療養病床の円滑な転換
- ⑧ 地域包括ケアの実現

この8つの対応策には、それぞれに数値指標を設定して、課題解決に向けた取組みを進めていくこととしています。

なお、次のページ以降は、それぞれの対応策の前提となる「現状と課題」をまず示し、それから「目指すべき方向」と「主要な施策」を示す構成としています。

課題と対応策

H20.9月末現在
65歳以上
456,897人

介護保険制度

非認定者
375,668人
(82.22%)

要介護
認定者数
81,229人
(17.78%)

要支援1
12,808人
要支援2
11,552人

要介護1
14,966人
要介護2
12,107人
要介護3
11,571人
要介護4
9,488人
要介護5
8,737人

元気高齢者

要支援高齢者

要介護高齢者

本人

家族

地域（市町村）

事業者・従事者

対応策① 高齢者の健康づくりと社会参加の支援（→P14）

- ・自身の知識や経験、技能を活かしたい
- ・仕事を続けたい ・「生涯現役」でいたい
- ・長く健康でありたい ・「健康長寿」でありたい
- ・生活習慣病にはなりたくない
- ・認知症や介護状態になった時は不安だ
- ・苦しみを伴う病気にはなりたくない
- ・できる限り自宅で生活したい

・いつまでも
元気でいてほしい

- ・多くの高齢者に地域のリーダーや担い手になってもらうことを期待しているが実状はまだ少ない
- ・生きがいを持った高齢者をもっと増やしたい
- ・健康づくりを進めて地域に元気な高齢者を増やしたい
- ・社会参加の機会や場は増えているものの、それを求める高齢者との組み合わせがうまくいっていない

- ・できる限り要介護状態にならないようにしたい
- ・ひとり暮らしになったら不安だ
- ・グループで助け合って暮らしたい
- ・趣味や生きがいを
持って暮らしたい
- ・これからの生活についてどこに相談すればいいのかわからない
- ・本格的な介護に備えて、介護や福祉に関する情報を入手したいがどこで得られるのかわからない

- ・徘徊見守りネットワークが十分整っていないので、本人や家族を支えきれていない
- ・高齢者の独居・夫婦のみ世帯が増えているものの、地域での見守りが十分でない
- ・地域包括支援センターの相談機能が発揮できていない

・理念が浸透していないからか、介護予防に取り組む事業者数が少ない

対応策② 要支援・要介護状態の重度化予防（→P24）

対応策③ 孤立化した（引きこもり）高齢者の見守りネットワークの構築（→P31）

対応策④ 地域全体で認知症高齢者とその家族を支援する体制の整備（→P37）

- ・サービス事業者を選ぶ際の情報が十分に整理されていない
- ・自宅や住み慣れた地域で生活を続けたいが、そのためのサービスが決して十分でない
- ・必要な時に介護や医療のサービスを受けたい
- ・施設に入所しても、快適な生活環境で生活したい（人間として尊重され、生きがいを持って暮らしたい）
- ・上質な介護を受けたい
- ・最期まで尊厳を持って生きたい
- ・できるなら、自宅で最期を迎えたい
- ・施設は住み慣れた地域にある方がいい
- ・家族にはあまり負担をかけたくない

- ・介護疲れの時の支援がほしい
- ・認知症に対する周囲の理解が十分でない
- ・自宅で看取りができればいい
- ・施設に入所すると家族の負担は軽減される
- ・施設に入所してもできるだけ家庭的なケアをしてほしい
- ・施設は家族が行きやすいように近くがいい
- ・介護費用は本人の年金だけでは不足する人もいる

- ・住み慣れた地域で生活し続けるための居宅サービスは、中山間地をはじめとして十分整っていない
- ・高齢者の独居・夫婦のみ世帯が増えても見守りや十分な介護・福祉サービスが提供できる地域でありたい

- ・在宅で重度の方からの特別養護老人ホームへの入所申込が増加している
- ・サービス事業の適正な運営を一層確保しなければならない
- ・認知ケアなどのサービスの質の向上を図る必要がある
- ・介護の人材離れに歯止めをかけ、働きがいのある職場に変えていく必要がある

対応策⑤ 必要なサービスが速やかに利用できる基盤の整備（→P45）

対応策⑥ 介護サービスの質の確保と向上（→P58）

対応策⑦ 療養病床の円滑な転換（→P66）

対応策⑧ 地域包括ケアの実現（→P71）